



# 消防団だより

第 22 号

発行

富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地  
 電話(0545) 55-2851  
 (0545) 55-2852  
 FAX(0545) 53-4633



**防火協会賞**  
 「明鏡」遠藤 里美



**消防長賞**  
 「救助隊」軒村 政春



**市長賞**  
 「絆」大竹 康江

平成24年  
 富士市消防出初式  
 写真コンテスト  
 優秀作品



**消防団長賞**  
 「消防士が夢」荻田 長蔵



**団長賞**  
 「天空映る」高橋 正雄

富士市消防団 副団長 天野 昇

早いもので富士・富士川が合併して十月で三年が過ぎました。消防団員の皆様におかれましては、常日頃の活動に感謝いたします。

私の一番の思い出は第三十二回静岡県消防操法大会において、ポンプ車操法・小型ポンプ操法で両部門優勝を達成。そして、第二十二回全国消防操法大会に、静岡県代表として出場し見事優良賞を獲得した事です。また、平成二十三年度の県大会でも第五分団が小型ポンプ操法で準優勝に輝きました。選手の皆さん本当にご苦労様でした。

さて、三月十一日東北・関東の東日本に甚大な被害をもたらした国内史上最大の地震が発生して、多数の消防団員が住民の生命を救いながら自らは尊くも消防の使命に殉じられま



頑張ろう  
 富士市消防団

した。心から「冥福をお祈り致します。私達、富士市でも駿河湾沖を震源とした巨大地震が懸念されている。今、消防団活動は火災の対応だけでなく、様々な災害等から市民の生命、財産を守るべく日々訓練に励んでいるわけですが、万全の体制の下で訓練の成果が十分活かされるよう団員一人、一人が非常勤の地方公務員である事をより一層強く認識し行動しなければならなくなっています。又、有事の際には昼夜を問わず活動しなければなりません。そして、過疎化による若年層の人口減少等により団員の確保も難しい状況になっておりますが、消防防災の中核として地域住民の期待に応えるよう富士市消防団は、鈴木団長を先頭に一丸となって取り組んで参ります。

ご協力の程宜しくお願い致します。



**平成二十三年度富士支部消防団員  
消防操法及び訓練礼式査閲大会**  
七月三日(日)富士市公設地方卸  
売市場駐車場にて富士市・富士宮市  
を代表する消防団員たちが県大会  
出場を目指し競い合いました。

**第三十三回静岡県消防操法大会**  
九月十一日(日)静岡県消防学校  
において各支部を代表する消防団  
員たちが全国大会出場を目指し競  
い合いました。

### 静岡県消防操法大会

第5分団 班長 瀧浪 宏俊

平成二十三年九月十一日、第三十三回静岡県消防操法大会が行われました。富士支部の小型ポンプ操法大会で優勝した我が五分団は富士支部代表として県大会へ出場。

今回、私は指揮者の大役をもらい、出場まで緊張と不安の中、一年半にわたる訓練に励み、第一分団が成し遂げた『全国大会出場』を目標とし選手・団員の方々と一丸となり練習を重ねて来ました。

我が五分団においては、県大会出場は初めての快挙であり、周囲の盛り上がりも期待が大きくなる一方、選手達は焦りとプレッシャーを少しずつ感じていきました。

県大会当日の開会式では、支部の代表となる選手達は皆、気迫が感じられ、同じ思いで練習に励んで来たんだなと思えました。

本番では前のチームに水が出ないアクシデントが発生し、緊張が走り出したが心を落ち着かせ、精一杯の声を出し無我夢中で演技をし、心配していた大きなミスもなく無事に終了。



今までの練習の成果を出し切り『ホッ』とした瞬間でもありました。

選手一同『悔いが残らず出来ました！』の言葉を貰った時、指揮者としてチーム全員が努力してきた結果であり、『ありがとう』の気持ちで一杯になりました。

優勝こそできませんでしたが準備の喜びを貰い、今までに無い経験をさせてもらいました。

ここまで指導して下さいました指導員、ご支援ご協力して下さいました団員の皆様、本当にありがとうございます。



### 富士支部訓練礼式査閲大会

第2分団 団員 今野 英男

平成二十三年七月三日、富士支部査閲大会に訓練礼式の部で出場し、優勝する事が出来ました。

私の役割は後列一番で、自分の位置取りが後列の基準になるので常にプレッシャーが有りました。前列との距離、足の位置、節度など。

約三ヶ月間の大会に向けた訓練でも指導員の方々から度々指導を受けていたので、大会本番でもその事が頭から離れませんでした。自分の位置取り、指揮者の号令に対してミスをしないよう、それだけで精一杯でした。

競技が終わった時、勝敗よりも重圧からの開放感と、自分なりにやり遂げた満足感で晴れやかな気分になりました。

例えば富士市消防団に入団したのが丁度二年前。入団してすぐに訓練礼式の選手に選ばれました。訓練礼式の内容もよくわからず、出初式で前回優勝の模範演技を初めて見た時は衝撃を受けました。

そんな自分がこうして昨年、そして今回の大会に出場、優勝隊の一員になれるとは思っていませんでした。

初めてづくしで何も知らなかった私ですが、今回選手を務めさせていただき、多くの貴重な経験をさせていただけました。訓練を通じて消防団員の基本となる規律、動作を学べた事と、多くの方と交流が出来、支えられて今の自分が在ると実感しています。

消防団員としてはまだまだ未熟者ですが、今回の貴重な経験を今後の活動に活かしていきたいです。

最後に、共に苦勞し喜びを分かち合えた指揮者 選手の皆様、熱心に御指導下さった指導員の皆様、応援して下さいました分団 方面隊の皆様、本当に有難うございました。



つた分団 方面隊の皆様、本当に有難うございました。



平成24年 消防出初式  
1月8日(日)  
市役所駐車場

### 出初式の決意

第7分団 班長 田中 篤

昨年を振り返ってみますと、地震に始まり、計画停電・集中豪雨・台風等の自然災害が多発しました。

その度に詰所に集合し地元地域の巡回を行いました。

今までの消防団活動は火災時の消火活動だけだと思っておりましたが、これから予想されるであろう東海地震・地球温暖化による集中豪雨等の事を考えた時、我々消防団員に与えられた活動の重要性を改めて感じました。

出初式の寒い中、青葉通りでの分列行進中『頑張つて！』と声援を送ってくれた人がいました。

市民の人達が我々消防団員を信頼してくれているんだと痛感しました。東日本大震災では、我々の仲間である消防団員が多くの被害に遭いました。勇敢に自然災害に立ち向かった彼等の為にも、これからも地域の人達が少しでも安心して暮らせるよう防災活動をやつて行こうと改めて決意しました。

### 平成二十四年消防出初式に参加して

第14分団 団員 鈴木 雄二郎

身も引き締まる寒さの中、平成二十四年消防出初式に参加しました。

昨年は、日本列島を様々な大規模災害が襲う未曾有の年となり、多くの方々はその犠牲となりました。

その中には私たちと同じ消防団員の方も多く含まれています。自らの命を顧みず、地域のために活動を行った仲間への敬意を表すとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

常日頃から、地域に根ざした消防団活動に取り組んでいる私たちも、このような大規模災害が発生した時に、少しでも地域の災害活動の一助となるよう訓練に励んでいます。この消防出初式に参加することで、気持ちも新たに消防団活動へ真摯に取り組んでいきたいと思えました。

結びに、本年が災害の無い平穏な年でありませう、心よりお祈り申し上げます。



詰所新築

第6分団 部長 分部 春樹

この春、我が富士市消防団第六分団詰所が旧詰所の跡地に新築となりまし

た。新詰所は、旧詰所に比べて耐震化・近代化が一段と進み、隣接する神戸ま

ちづくりセンターと共に神戸地区の防災拠点の一つとして生まれ変わりました。これもひとえに、鈴木市長はじめ市民の皆様、そして地元地区の皆様のご理解・ご協力の賜物として御礼申し上げます。

紙面をお借りし、昨年からの工事と

なり、工事中には近隣の方々には御迷惑をお掛けした事に対し、ここにお詫び申し上げます。

また、工事中の仮詰所として秋山配管工業(株)様にご協力を頂き、無事に過ごす事が出来ました。誠にありがとうございます。御座いました。

今後、団員が一致団結して今までにも増しての消防団活動・地域防災活動にまい進してまいりますので、皆様方の強力なご支援・ご鞭撻を今後とも宜しくお願い致します。

第二十二分団・新詰所完成!!

第22分団 団員 坂本 光俊

消防団員の皆さん、日頃の消防団活動、ご苦労様です。

また、ご家族等、関係者の皆さん、日頃のご協力、感謝致します。

さて、実際の火災における消火活動、普段の訓練や常会、あるいは夜警など日々の消防団の活動において、その活動拠点となっているのが詰所です。詰所はポンプ車の車庫というだけでなく、各種装備を収納したり、夜警の時は待機場所となったり、常会や各種会議など行ったり、何よりも大規模災害発生時は、自分と周囲の安全を確認後、詰所に集合、その後の指示を仰いで各種救援活動に取り組み事になっており、分団だけでなくその地域の防災拠点といえるかもしれません。

そこで第二十二分団の詰所ですが、建物の老朽化、耐震性の強化を図るといった理由により、建て替える事になりました。平成二十三年五月に、旧詰所から仮詰所となる同じ地区のテント倉庫にお引越し。常会は丘まちづくりセンターを借りて行う等、仮住まい?での消防団活動を展開してました。

そこへまさに降って沸いた災難。平成二十三年九月二十一日、富士市を直撃した台風十五号により、仮詰所は壊滅的な被害を受け、屋根代わりのシートは吹き飛び、ポンプ車は破損、照明等、装備の何割かも壊れてしまいました。その後、隣の倉庫に装備を移して、消防団活動を継続しました。

そして年が明けて平成二十四年、遂に新詰所が完成しました!!

三月十一日、奇しくも東日本大震災からちょうど一年経った日ですが、この日に晴れて落成式が行われました。

今まで裏にあったホースタワーが表に移り、より作業し易くなりました。

新築の建物の香りを味わいながら、心機一転、新詰所と共に第二十二分団は消防団活動に励んでいきます。操法大会も頑張ります!!



新ポンプ車納入にむけて!

第9分団 班長 清水 博喜

新ポンプ車納入にむけて!の前に、まず私たち九分団の紹介をさせていただきます。



私たち九分団は、現在団員数三十四名で構成され、北は大瀬の流を有する須津川溪谷、西は赤瀬川、東は沼津市境、という広範囲を任される富士市の一番東に位置する分団です。

日々、地域のみなさまの安心・安全を守るために火災消火活動はもとより、平常時においても訓練・火災予防活動等を行い、地元九分団ここに在り!といった精神で、団員全員頑張っています。

近年では、石川班長を指揮者とする小型ポンプ操法の静岡県大会で準優勝という成績をいただきました。(フチ自慢はいりました!こちそうさま!)

さて今回、新ポンプ車納入の一報を受けたのは平成二十三年当初のことでした。年末納車であることを聞き団員全

員で喜び、車種はどうする?ポンプレイアウトは?ここはひとつアルミホイールで?(おおっ!)ナビ付けてもらおう!(オオ!)ハイブリッドがいい!(ヤッター!)などと話をふくらめて盛り上がりつつありました。ところが、私たち団員も心を痛める東日本大震災による諸々の影響により年内の納車は延期となり、年越しの納車予定となってしまいました。

出初式には間に合わなくなってしまう少々がっかりはしましたが、この状況で新車を納入していただける訳ですので、団員全員首を洗って、否、ながーくして待っています。

尚、現在のポンプ車両は、平成三年八月の納車以来二十年という長い期間、私たち九分団の消防団活動と共に休むことなく元気に、一生懸命、文句ひとつ言わず、働き、がんばってくれました。ここで、ポンプ車にインタビューしてみました。

「ゴメンね、もっと一緒に九分団のみんなと消防団活動をしたかった...何かのたびにボクをきれいに磨いてくれたり...軽くぶつけられたりもしたけど...ボクは幸せだった...」

いやあ、どつかで聞いたことのあるような台詞だし...今後は九分団の江尾分所の車両としてまだまだ一緒に働くこととなると思うんですけど、でも、今まで本当にありがとう!これからもよろしくたのむね!

新車納入

第30分団 班長 望月 雄介

この度、我々の分団に新しいポンプ車が導入されるとの喜ばしい話を聞いた時、分団の友人が愛車の話をしていた事をふと思いついた。十数年乗り続けてきたクレスタをついに買い替えるが、新車を買っても旧車は家に置いて

おくという話だった。いきなり話が脱線して大変申し訳ないが、今の私の心境が何となく友人のそれに似ている様な気がし、書かざるを得なくなった。

分団ポンプ車が新しくなると聞き、想いを馳せたのは団員達と共に数々の思い出を残してきた現ポンプ車の事だ。

平成三年十二月納入のいすゞ製フォワード。総重量五トンの巨体は旧富士川町消防団時代を含めて約二十年、辺境・南松野の、それは狭き山道を我が物顔で走り続けた。

富士市となり、出初式に出れば、他分団の方々に「でかいなあ、あのポンプは」と言われた時、少しばかり誇らしく思えた。数々の操法大会にも精銳の出場隊員を引き連れて行った。だが大変じゃじゃ馬娘で、ギアは入り辛く、排気ブレーキは時々謎の停止、何せこの巨体で狭い山道は技量が必要だった。

団員の中には、内輪差を考えずにハンドルを切って路肩に乗り上げたり、私も急坂の名所で恐怖のあまりクラッチペダルを踏み、同乗団員の肝を冷やした事もあった。

新車が来てくれたら、そんな苦勞も緩和される！なんて素晴らしい事だろうと日々、納入の日を心待ちにしている。正直、旧車との別れには寂しさも覚える。分団員の中には、道なき道を走行する自動車のマニアが居るし、大型自動車の熟練整備工が居るし、土建業で大型車を手足のように操る団員もいる。そして後ろに控える力ある指導員。新入りのポンプ車は、きつと可愛がられる事だろう。

総員で、新入りの入団が今か今かと待ち遠しい今日この頃である。

## 家族に感謝

### 家族から見たお父さん

第19分団 団員家族 植松 京子

「ボーン」と富士市広報無線が鳴ると同時に、無線スイッチを入れる。「第九分団出場」の発声と同時に「急げ」「早く」と言いながら、バタバタと着替え「ヘルメット」「車のエンジン」などと言いつつ慌てて出掛けて行く。そんなに慌てて行かなくてもと思うのですが、一刻も早く出場して火災現場に行かなくては、という信念からだと思えます。

それにしても気合が入っているね。消防団員という使命感で、動いているんだね。本当にすばらしいと思えます。広報無線の出場の声に、家族も結構敏感になっています。

主人が消防団に入団して、もう二十年近くになります。自営業の自分の仕事をやりながら、消防団活動を色々よくやって来たと思います。疲れていても「行ってくるか」と言っ出て掛けたら、火祭りの「かりがね祭り」では、かやなどが入った漏斗が燃えた時の消火作業は、出場の時には見られない消火作業が見られて、「すごいな、大丈夫かな」と心配な気持ちになります。

家族はただ見守るだけですが、本当



## またしても雨

### ソフトボール大会

第12分団 団員 渡邊 祐一

今年も消防団のソフトボール大会の季節がやってきた。

にお疲れ様です。そんな主人を本当に誇りに思います。制服制帽で出掛けるときは、「キリッ」としてとても格好いいです。

主人もあと、何年、どのくらい消防団を続けるかわかりませんが、けがなど何事もなく、退団するまで、お父さん「気合い」で頑張つて下さいね。私も消防団員の妻として頑張らせていただきますね。

最近の大会は当日に雨が降り、中止になる事が多い。

大会が近づくと仕事が終わった後、各自道具を持ち寄り、地元のグラウンドで夜間練習を行います。

消防団のソフトボール大会は、ジョイフルスローピッチという競技規則に則り行われる。

ジョイフルスローピッチは野球経験のない人でも楽しく参加できる良いルールだと思えます。

大会の目的は、ソフトボールを通じて消防団員の親睦を図るとともに、団員の健康を増進し、火災等の災害に対する連携動作と敏速的確な行動力を養うものとして行われる。

消防活動においても活かされると感じる事は、一人では出来ない事も皆で協力して一つの目的を達成する」と言う事だと思えます。

そして大会当日：またしても雨が降り大会中止となってしまいました：残念。



## 団員募集 & 県条例紹介

### 消防団活動に協力する事業所等を応援します。

「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」が制定され、平成24年4月から施行されます。この適用による県税の特例があります。

#### 1 対象

- 以下の要件を満たす、知事の認定を受けた法人（資本金又は出資金が1億円以下）または個人
- (1) 県内に事業所等を有し、かつ当該事業所等のすべてが「消防団協力事業所表示制度」の認定を受けていること。
- (2) 県内の事業所等における使用者等のうち、消防団員が1名以上いること。
- (3) 消防団活動について配慮した規程(就業規則等)を整備していること。

#### 2 適用税目と期間

- (1) 法人事業税  
平成24年4月1日から平成26年3月31日までの間に終了する各事業年度の事業税
- (2) 個人事業税  
平成24年、25年の所得に対して課税する平成25年度、26年度の事業税

#### 3 控除内容

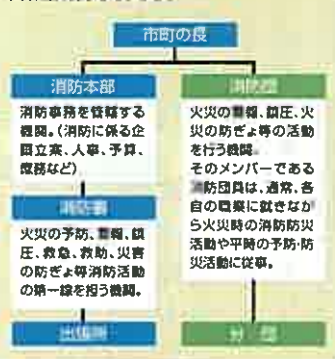
事業税額の1/2に相当する額を控除(10万円を限度)

① 具体的な手続きについては、県のホームページにより確認願います。  
アドレス【消防保安課】 <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/shobo/index.html>  
【税務課】 <http://www.pref.shizuoka.jp/soumu/so-140/index.html>

### 消防団とは

市町ごとに設置され、地域に密着した消防防災活動をする消防団

消防は、市町長が管理しています。消防団が所属の消防機関として、消防防災活動の第一線を行う機関であるのに対して、消防団は、非営利の消防機関と位置づけられ、相互に連携を図りながら消防防災活動に従事しています。



### 消防団活動に協力する事業所等を応援する条例が制定されました!

「消防団の活動に協力する事業所等を応援する県税の特例に関する条例」が制定されました。

- ① 以下の要件を満たす、知事の認定を受けた(資本金又は出資金が1億円以下の)法人又は個人
- (1) 県内に事業所等を有し、表示制度の認定を受けていること。
- (2) 県内の事業所等における労働者等のうち、消防団員が1名以上であること。
- (3) 消防団活動に対する配慮が規定された就業規則が整備されていること。
- ② 適用税目と期間
- (1) 法人事業税(県税)  
平成24年4月1日から平成26年3月31日までの間に終了する各事業年度  
※3月決算法人の場合 昭和年度で平成25、26年度  
※4月決算法人の場合 昭和年度で平成24、25年度
- (2) 個人事業税(県税)  
平成24年、25年の所得に対して課税する平成25年度、26年度
- ③ 控除内容  
事業税額の1/2に相当する額を控除(10万円を限度)



防火ポスター優秀賞受賞者(小学生)



防火ポスター優秀賞受賞者(中学生)

消防まつりの絆

第11分団 団員家族 佐藤 敦子

十一月十三日、毎年恒例の消防まつりがおこなわれました。私たち分団は例年通り「草もち作り」です。

思えば、一日かけて団員とその家族でのよもぎ取り、今年は雨でとても寒い日でした。詰所に帰って来てお湯を沸かして「あく」を取り、冷凍保存して、今年はどうな色・香りのお餅ができるかななどと、話が盛り上がりながら秋本番への準備をしました。

消防まつりの前日は、もち米を洗い「餡」をひとつひとつ団子にします、子供たちは紙花をつくり、「今年も行列ができるかな?」「今年も早く終わるといいネ」などと話し合いながら、団員や家族の人たちとで和気あいあい楽しく共同作業をしています。

当日、天気が良ければいいなと言いながら、主人は朝まだ暗いうちからテント前に飾る竹を切っていました。

朝早くから準備をする分団員、何事もときばきとできる姿は、さすが消防団員だと感心するばかりです。

私たち女性はお餅がつき上がると手を休めることができなくなります。今年初めて参加してくれる若い人、ベテランの人、消防団員の家族ということから話はずみ、和気あいあい楽しく草大福を作ります。

今年もまた、行列ができてしまいました。大変ですが団員家族がひとつになって、ひとつのことを成し遂げることができ、楽しい一日になりました。

私は、用事があり途中で帰りましたが、今年も早く終わることができ、他の分団の模擬店も見に行くことができ、また今年も賞を取ることができたと聞きました。

団員・奥さん・子供たち、それぞれの笑顔がとても良く、分団の和・絆・思いやりなど、改めて実感でき、良い思い出になりました。また、分団員の頼もしさと団結力の一面を見た一日でもありました。ご苦労様でした。

市民と消防団の絆

第16分団 班長 大芝 昭二

我が分団は、毎年恒例の「焼きそば」を販売しました。東側中央に陣取った十六分団は、横断幕を新調、シンプル&コンパクト、秘伝の味で勝負をしました。消防まつりの何カ月も前から準備をしてくれた人もいました。前日の夜も住宅査察後に皆が詰所に集まり、トラックへ荷物を詰込み、当日は早朝より集合してのスタートでした。

テントを張り、キャベツ切りを家族の応援を得ての作業開始、鉄板の具合に関わる職人や、盛付の準備など団が一つになつての準備から片付けでした。

十時を過ぎた頃には、店頭前列が出来て、大繁盛でした。「今年も楽しみに来たよ、十六分団の焼きそばは美味しーよ」と気軽に声を掛けて頂き、店先では和気あいあい楽しんで頂きました。

消防まつりは分団との交流も兼ねていますが、一番は市民の方々と消防活動に係わる人達との交流の場ではないでしょうか。利益度外視の店の運営と笑顔で楽しんで頂いた方々の「絆」が結ばれた消防行事でありました。

消防まつり

第27分団 団員 早川 大志

十一月九日は何の日か、皆様ご存知ですか? 十一月九日は「一九番の日」です。



「一九番の日」から秋の火災予防週間が始まり、その一環として「消防まつり」が盛大に行われました。富士市消防本部や私達のような三十一地区の消防団、協力団体が主催となり、各種の模擬店や消防音楽隊・幼稚園などの演技・消防クイズ・投げ餅などの様々なイベントが行われました。

私達二十七分団は、「やきとり」を販売しました。メニューは「ねぎま、もも、つくね、もつ」など種類を豊富に用意しました。絶妙な火加減に、熟練した手捌

きを駆使し、多くのお客様に喜んで頂けることもできました。絶えず行列ができ、待ち時間が二十分になってしまいうお客様もいらっしゃいました。おかげさまで、おいしい「やきとり」を多くのお客様へ提供でき、お昼には完売になりました。完売時には、団員みんなが達成感で一杯になりました。一致団結して出す模擬店を通して、団員間のチームワークや意識・お互いの理解が高まりました。



華麗なる演技

### 会場型防災訓練

第28分団 分団長 望月 幸博

富士市との合併後、初めての会場型防災訓練が八月二十八日に富士川一中グラウンドで行われました。

富士川地区全区が参加して行われるような訓練は今回が初めてということと、とまどいや不安がありました。去る三月十一日に起こった東日本大震災を目の当たりにすると、訓練の必要性や緊急時の対応などの大切さがわかります。小中学生の参加も多数あり、地域ぐるみで訓練に真剣に取り組む姿勢が強く感じられました。

消防団の担当としてはバケツリレーと一斉放水の手伝いをしました。自分が担当した一斉放水では、区の方からポンプの取り扱い方法やホースの取り回しなどの質問や相談があり、皆さんが真剣に取り組んでいることが強く印象に残りました。

今回の訓練を一つの機会として、これからさらに地域との関わりを親密にしながら防災意識の向上に取り組んでいきたいと思えます。



### 富士市総合防災訓練 富士川地区会場型訓練

8月28日(日)富士川第一中学校を会場に会場型の防災訓練が実施されました。

### 想定訓練



### 秋季火災予防早朝訓練について

第17分団 団員 吉満 勝比古

「訓練火災指令 本市場」無線による出動指令。今回の早朝訓練は方面隊での訓練で、場所は我が十七分団管轄の柳島公園。機関員は初めてではないがいつもの如く緊張する。

「表示灯ヨシ！」では出発だ。

現場到着。通常だと公園近くの川には水が流れているが、今回は水が無いので柳島公園の防火水槽を使用するとの事。公園の鎖を全員で手際よく外しバックで侵入。マンホールを開け吸管投入。真空を掛け放水初めの指令で圧力五。いつもの如く機関員は圧力計とのにらめっこ。先の様子が気に掛かるが機関員の宿命で仕方なし。圧力計を見ていると数分で放水止めの指示。バルブを閉め撤収作業。方面隊長の講評を聴き詰所へ帰所。防火水槽の腐った

水を吸い上げたのか、吸管に異臭がつき水洗い。  
今回機関員として私の採点は、「まずまずかな」と感じた。これから冬を迎えるにあたり、初心に戻り身の引締まった気持ちとなった。  
今後も消防団活動に進んで協力して行きたいと思えます。



消防演習 11月9日 会場:富士市立看護専門学校

### 災害から学ぶ

### 東日本大震災で感じたこと

第4分団 団員 佐野 晶彦

三月下旬と四月下旬、東日本大震災で影響を受けた岩手県と宮城県沿岸部を訪問しました。目的はボランティア活動をこなすための情報収集・連絡と現場を見ることでした。

テレビなどの映像を見ていましたが、現場に立つと言葉がでません。津波により何も無いところと、津波により色々な物があるところ、非日常の現実が目の前に広がっています。声にならない言葉「なんじゃこりゃ」が心の中で繰り返されます。現地の被害にあわれた多くの方とお話をさせていただき、多くの滅災へのアドバイスをいただきました。その内のふたつを紹介させていただきます。

一つ目は、自分が置かれている環境、住居や会社の状況をよく理解し、地震や津波が起こったらどのような状況になるかよく知った上で、一度すべてを忘れて避難する経路を考えると教えられました。この意味は、地震や津波は想定を超える可能性が十分あります。だから想定を一度学んだ上で、想定以上の行動をしろということです。訓練は必要ですが、それが完璧とは限りません。

二つ目は、すべてを失う度胸が必要と教えられました。大切な物は各自色々あります。それは、物であったり、家であったり、仕事であったり、家族であったり。ただ、津波はそのすべてを奪い去ります。一刻も早く避難しなければ自分の命が危ない。まず第一に自分の命を守れるということです。状況によっては、家族の手を離しても助かる為に

逃げる必要があると教わりました。考えさせられます。親や子供の手を離して逃げるなんてできるだろうか？考えさせられます。  
でも、東海地震はきます。できるだけこのことはしておきましょう。  
私は地震について家族で話し合うことが一番の滅災になると思えます。



提供:総務省消防庁

### 地元小学校の児童・教員を救った適切な訓練



岩手県・宮古市  
宮古市消防団  
井戸端 部長

岩手県宮古市の鎌ヶ崎小学校では、避難広報中に小学校に立ち寄った井戸端部長の適切な情報と避難誘導によって、児童の命を守ることができた。



新入団員として

第21分団 団員 岡崎 大輔

私は、今年、新入団員として、富士市消防団第二十一分団に入団致しました。

私の父も二十一分団の団員でした。

私と同じ二十七歳の時に入団したそうです。

私の父は、二十六年活動していましたが、その内の十一年は、訓練礼式の指導員をしていました。色々な選手をやり、後に指導員になったそうです。選手の時も指導員の時も父は一生懸命でした。

「やる以上は頑張る」と、いつも言っていました。私は父に数年前から消防団に入るよう勧められていましたが、訓練が多く大変そうに見え「その内に」などとあいまいな返事をしていました。

でも父は私の前では一度も「大変だとかは言った事ありませんでした。父は、とても元気で明るく、楽しく、優しい温かい人で家族も大切にしてくれました。」

その父が昨年七月に突然の病に倒れ、手術をし、一週間頑張ってくれました

が他界しました。父の死は大きなショックでしたが父は私に頑張る姿をしつかり見せてくれました。

父が入院中消防団の方々がお見舞に来て下さいました。そして父の人柄をほめて下さいました。こんなにも多くの方々には父は思われてたずさわっていただんだと思ひ知りました。

通夜葬儀にも消防関係の方々や父の為に色々な事をして下さり父を送って下さいました。

ここで消防団の方々へ心より感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございます。

分団長に「私の入団を希望していた父親の遺志でもあるから考えてほしい」と言われました。父の様には出来ないと思ひましたが入団する事にしました。そして私も父の様に富士市民や地域の為に頑張っていこうと思ひています。皆様よろしくお願い致します。

新入団員教育に参加して

第20分団 団員 山野 知昭

四月二十四日、公設地方卸売市場で行われた新入団員教育に参加しました。二十分団からは、私を含め二名の参加です。

まず、消防団長からの訓示をいただき、その後団員の責任と心構え、消防団の概要活動等の講義を受けました。三月十一日の東日本大震災の事もあり、気の引き締まる思いでした。

屋外では、動作についての各個訓練、部隊訓練を御指導いただきました。

昼食をはさみ、小型ポンプ、ポンプ車操法の訓練です。実際にホースの巻き方・延ばし方・運び方等をマンツーマンで御指導いただき大変勉強になりました。

今回の教育を終えて、今後もしっかり

り消防団員として活動していきたいと思ひます。

今回御指導いただきました、消防団長はじめ、関係者の皆様に感謝いたします。大変ありがとうございました。



火災期特別警備(夜警)

第29分団 班長 植松 克則

私達の分団(松下和孝分団長以下二十名)では、今期で三回目の火災期特別警備を迎えています。旧富士川町消防団では火災期特別警備はありませんでした。その為、当初は困惑もありました。

が、第七方面隊としての警備方法も確立し、現在では団員も慣れて来りました。警備の体制は班長を中心に三名をグループとし、役員を含め六グループで編成し対応しています。団員の職業も様々で、三交代勤務者や、遠隔地に勤務している者もいますので、当番日に都合が悪い団員も出て来ます。その様な時は団員相互の調整と、毎晩詰所に待機している役員の補助で警備体制の維持に努めています。

巡回は管轄内の山林および富士川河

川に着目し、農免道路と幹線道路を経由して、暗闇の中で不審者や不審車両が無い状態を凝らしながらの巡回となります。山間部においては冬季積雪、路面凍結や、四トン車の大型ポンプ車両では道幅いっぱいの順路もあり、細心の注意で安全運転を心掛けています。

夜警は待機時間が長いので、新入団員の指導にも活用しています。ポンプ車両の点検や消火活動時の操作方法、また節度などの基本訓練の良い機会になっています。特に運転に関しては四トン車の為、車幅・シフトポジション・排気ブレーキなど乗用車とは異なる基本運転の指導をしています。運転経験の少ない団員にも考慮し、運転手を交代しながら巡回する工夫もしています。管轄エリアが狭いため、同じ巡回経路に偏らぬように夜警日誌を都度確認しながら各グループが警備を行っています。

火災期特別警備の時期は火災の発生しやすい状況が続きます。火災予防のピーアールに専念し、無火災のための活動を継続して地域への貢献を果たしたいと考えています。



地域の防災意識を高めよう

富士市幼年消防クラブ 会長 長田 裕規

大変な犠牲者を出してしまった東日本大震災を契機に、全国的に防災意識が高まっています。私どものわかば幼稚園でも同様に、保護者の皆さんや職員の意識もずいぶん高まりました。そこで今年も全国的に行われた防災訓練にあわせて九月十二日に訓練を実施しました。

先生方にはあらかじめお知らせしていたのですが、子どもたちやたまたま居合わせた保護者の皆さんにとっては突然の訓練となりました。けたたましいサイレンとともに、地震発生を知らせるアナウンス、まず先生方は防災ずきんを頭につけさせて、そして机の下に避難するように指示、子どもたちは突然の出来事に驚いたかと思ひます。

次に「落ち着いて園庭に集合してください」とのアナウンス、教室から落ち着いて外に出て園庭に整列し、全員の子どもたちがそろったことを確認しました。

突然の訓練で、ずいぶん戸惑いもあつたかと思いますが、子どもたちは普段と同じように先生方の指示に従って落ち着いて行動することができました。

園児は、普段から先生の指示で動くことに慣れていて、案外大人よりも冷静に行動ができたのではないかと思います。

近頃はいつ、どこで、どのくらいの規模の災害が起きるか予想もつかない世の中になってしまいました。また今回の震災で日頃の訓練がいかに大切かを思い知らされました。

そこで来年度からは、頻繁に発生する地震や火災に対処するために、月一回の防災訓練を予定しています。

年長さんたちは、運動会や生活発表会などの主要な行事では太鼓を披露しています。そのために四月から鼓隊パレードやドリルの練習に一生懸命励んでいます。

皆さんご承知の通り、年々子どもたちの体力は低下しています。

十年前は、大太鼓やティンパトン、シンバルなど重い楽器を軽々持ったのに、今では持てない子どもや、たとえ持つことはできても長時間持ち続けることができない子どもが増えています。先生方は、曲数を減らしたり、休憩時間を多く取り入れるなど、その対策には苦慮しているところです。

毎年、地区の防火意識を高めるための活動として、十二月には消防まつりでの太鼓演奏、また三月には、広見商店街で太鼓による防火パレードを実施しています。

今年度も子どもたちが、どんな太鼓演奏を披露してくれるのか保護者の皆さんとともに楽しみにしています。

## 方面隊長・分団長紹介



**第4方面隊** 左から 第4方面隊長 田村 茂、第13分団長 中島 省二、第14分団長 植松 正樹、第15分団長 西川 泰彦、第19分団長 望月 一人、第20分団長 土屋 仁



**第5方面隊** 左から 第17分団長 永戸 俊光、第5方面隊長 佐野 博昭、第16分団長 市川 恭、第18分団長 秋山 正富、第26分団長 高橋 英則



**第6方面隊** 左から 第6方面隊長 渡邊 明夫、第21分団長 井出 眞、第22分団長 館山 一政、第23分団長 長谷川裕則、第24分団長 諏訪部 仁



**第7方面隊** 左から 第7方面隊長 宇佐美 昇、第27分団長 若月 豊、第28分団長 望月 幸博、第29分団長 松下 和孝、第30分団長 小林 秀明、第31分団長 石川 豊彦



**第1方面隊** 左から 第1分団長 遠藤 安己、第2分団長 大村 友味、第1方面隊長 坂東満壽雄、第3分団長 鈴木 一孝、第25分団長 大竹 直市



**第2方面隊** 左から 第2方面隊長 長尾 文彦、第4分団長 丸山 史徳、第5分団長 渡辺 美明、第6分団長 藤田 明勲、第7分団長 渡辺 透、第12分団長 秋山 勲



**第3方面隊** 左から 第3方面隊長 仁藤 明良、第8分団長 菊池奈津男、第9分団長 鈴木 徹、第10分団長 鈴木 誠、第11分団長 山本伊知郎

## 編集後記

消防団だよりを発行するにあたり、団員皆様また、ご家族の皆様より多数の原稿をお寄せいただき厚くお礼申し上げます。

皆様の原稿を記載するにあたり拝読しまして、消防活動に対する切実且熱心な姿勢、家族の皆様への心温まる気持ちが伝わってきました。

昨年は、東北地方太平洋沖地震の発生により多くの方がその犠牲となりました。その中には私たちと同じ消防団員の方たちも活動中に津波に襲われ、命を落としていきます。私たち富士市消防団もいつ来るか分からない巨大地震に備え、これまで以上の団結を図り、地域の皆様との連携を築いていかなければなりません。

この消防団だよりが団員の意識の高揚と団結心が養われることを祈念すると共に、市民の皆様には消防団活動を少しでも理解して頂き、一人でも多くの消防団員を確保出来るようご協力をいただければと願います。

今後も皆様に親しまれる紙面作りに努力して参りますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。

広報紙編集委員長

- |                |       |       |
|----------------|-------|-------|
| 富士市消防団広報紙編集委員会 | 委員 長  | 小林 秀己 |
| 副委員長           | 総務部長  | 佐藤 重孝 |
| 団本部            | 副総務部長 | 鈴木 信一 |
| 委員             | 班長    | 前田 和徳 |
| 第二十五分団         | 部長    | 石川 和彦 |
| 第四分団           | 部長    | 福島耕一郎 |
| 第十一分団          | 部長    | 齊藤 正道 |
| 第十三分団          | 部長    | 望月 利仁 |
| 第二十六分団         | 部長    | 佐野 幸壽 |
| 第三十一分団         | 部長    |       |